

グループホーム柳河内Aユニット

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	5	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	1	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社変により平成19年7月に新たに開設となる。これを機に新たな理念づくりを行った同じ系列のグループホームと同一の理念を当ホームでも掲げている。	0	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの最も見やすい位置に理念を掲げ、全スタッフいつでも理念の確認ができるようになっている。業務に入る前に必ず理念を確認するようにし、日常の介護の中で常に意識を置くようになっている。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は一部パンフレット等にも掲載されており、ご家族の方、見学者の方などにも理解を得られるよう伝えている。また、運営推進会議でも当ホームの理念が新しくなったことを紹介している。しかし、地域の人々にわかりやすく理解をしてもらえるような取り組みまでは行っていない。	1	運営推進会議を通じてご家族や地域住民の方々に当ホームの理念が浸透されるように1度は(再確認のため)説明を行う。また、町内会長と相談し、回覧板等に当ホームの理念について掲載してもらえよう依頼する。
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	1	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会長のご自宅がほぼ真向かいにあり、度々挨拶したり、日々の散歩の際、近隣の方が気軽に声を掛けてくださる。時々バルコニーにて畑の水やりやひなたぼっこをしていると、散歩中の方々が柵越しにお話に来られる。スタッフにもこちらから積極的に挨拶に努めるよう指導している。また、回覧板を毎月利用者と共に向かいの家を持つ	0	
	5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の広報誌や回覧板を通じて利用者が参加できるような催しや行事には参加するようにしている(公園の草取りや近くの保育園の催しものなど)。しかし、老人会や自治会などの行事等には運営推進会議にて町内会長や公民館長から情報(囲碁の会や歌声クラブなど)は得ているが、未だ実践できていない。	1	今後、管理者やスタッフが直接現地へ赴き、どのように行われているか、当ホームの利用者も参加できるのかを調べ、検討していく。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地 え域 合 と い の	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	玄関先の掲示板に介護保険に関する相談窓口や後期高齢者医療制度に関するパンフレットを掲示したり、同系列のデイサービスセンターのご利用案内などを掲示している。運営推進会議の折、町内会長より地域の高齢者世帯についての情報を必ず提供していただき、周辺地域の情報を把握している。その他、実習生の受け入れも行っている。	0	
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	1	
		7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を理解した上で、スタッフ全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価の結果を全スタッフに報告し、改善策を検討し、実施している。	0	
	3	8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の入退居状況や年齢別、介護度別等を毎回必ず報告している。また、毎月のホームでの行事や外出行事、最近起こった事故等(転倒やケガなど)も報告するようにしている。その際、いろいろな方々より様々な意見や評価をいただき、今後の取り組みに活かしている。	0	
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内での行事(敬老会や忘年会、コンサートなど)には必ず招待状を送り、ご参加を促している。生活保護の担当者とは入居者の介護サービスに関して相談や助言を受けている程度である。	1	実際にはなかなかご都合が合わず、そういった行事等にもご参加できていないのが実情である。今後、もっと市町村担当者の方に当ホームのことを知っていただき、サービスの質の向上に繋げていきたい。
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年10月の運営推進会議の折、地域包括支援センターの相談員の方にパンフレットを用いて成年後見制度や地域権利擁護事業について説明していただいた。また先月の推進会議では成年後見制度の実際を相談員の方、民生委員、公民館長にお話いただいた。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年9月に当ホームの計画作成担当者が「高齢者虐待防止法」についての外部研修を受けており、昨年11月の勉強会(内部研修)にてその内容を発表し、全スタッフで検討した。ホーム内だけでなく、周辺地域でも高齢者虐待が行われていないか注意するよう指導した。また高齢者虐待に関する報道があると、スタッフ用の回覧に記事を掲載し	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
理念に 基づく 運営	4 理念を 実践す るため の体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとに時間をとって丁寧に説明を行っている。また、ホームの理念や一日の流れ、献立、介護についても詳しく説明し、ご理解や納得を得られるよう努めている。利用者やご家族の方にも何か尋ねたいことはないかを説明の合間にその都度伺っている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に「ご意見箱」を設置し、ご家族や訪問者だけでなく、利用者本人にもなにか意見や不満な点はないか呼びかけている。その他認知度の高い方からは日頃の表情や言葉、態度から「思い」を察する努力を心がけ、利用者本位の運営に反映させている。また日頃から毎朝のティータイムの際、何か言いたいことがないか一人一人に尋ねて	0	
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の訪問時や電話等で現在の利用者の心身の状態や日頃の様子などについて報告するようにしている。金銭管理も利用者個々の「お小遣い帳」を見せ、購入物品や現在の残高を確認してもらっている。また、転倒事故や熱発時など必ずご家族(キーパーソン)に報告している。スタッフの異動等は運営推進会議などで報告している。	0	
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記のとおり玄関先に「ご意見箱」を設置し、普段言いにくいご意見もいただくようにしている。また運営推進会議の折、ご家族の方一人一人になんでもよいので何かご意見はないかを管理者から尋ねている。面会時にもご家族の方に利用者の状態をお伝えした後、何かご意見や質問等がないかを尋ねるようにしている。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議の際、日常業務や勤務体制について意見を伺っている。その他、日頃から全スタッフとコミュニケーションを図り、業務や介護について意見交換を行うなど、いろいろ工夫している。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常日勤帯は3名のスタッフ体制(早出、日勤、遅出)であるが、行事や運営推進会議の際は計画作成担当はなるべくフリー勤務としている。緊急時には管理者もユニット業務に入ったり、もう一つのユニットからの応援も話し合いながら調整している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 の 実 体 制 制	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよ うに、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族の方の信頼関係を築くためにも馴染 みのスタッフが対応することが重要であると考えて いる。特に認知症高齢者は周りの環境に敏感で あるため、異動や離職は最小限になるよう努めて いる。離職を希望するスタッフにもきちんと理由 を求め、やむを得ない事情でない限りなんとか続 けてもらえるよう説得している。	0	
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	2	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や 年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生 きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよ う配慮している	スタッフ募集や採用に関しては何も制限はしてい ない。介護観や人柄を重視している。スタッフの 能力を勘案し、その能力が発揮できるような関わり を持つよう努力している。資格取得や個々の趣 味ができるように支援している。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するた めに、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの新しい理念を踏まえて利用者の意思の尊 重や思いやりを意識した介護に取り組んではい るが、人権教育や啓発活動についてはまだ取り組 んではいない。	1	今後、人権教育に関しての外部研修や公民館等 で行われている講話などに参加し、意識を喚起す る取り組みを考えていきたい。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をた て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	外部の研修にはなるべく多くのスタッフが受講で きやすいようFAXの案内文書をスタッフ用の回覧や スタッフルームの掲示板、申し送り帳等に提示し ている。希望者がなければ管理者が指名したス タッフに受講を指示している。受講内容は毎月 の勉強会で発表し、全スタッフの教育や質の向上 に繋げている。	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームやデイサービスとは常時 情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組 んではいないが、他の施設の同業者とは研修先 での交流のみで積極的なネットワークづくりが できていない。しかし、日頃から居宅介護支 援事業所のケアマネより入居申し込みやホ ームの空き状況を尋ねる電話があり、そこ から新たな交流が生まれる	1	地域の「ふれあい会(長住)」に参加を予定して おり、そこで他施設との情報交換を行い、ネ ットワークの構築に努めたい。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環 境づくりに取り組んでいる	日常的な会話や毎月のスタッフ会議などでス タッフ一人一人に意見を求め、できるだけ自由 に発言できる関係づくりに努めている。また 有休などを本人と相談した上で活用し、無理 のない勤務表を作成している。昔の懐かし い音楽(CD)も利用者やスタッフのスト レスの軽減に繋がっている様子。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場に来て利用者やスタッフと過ごすこともある。管理者とは常時情報交換を行い、個々のスタッフの業務状況、日頃の努力や成果などを報告している。職場環境やスタッフ一人一人が意欲や向上心を持って働けるよう努めている。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2 (自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 10 項目・外部評価 2 項目	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価 4 項目・外部評価 1 項目	0	
	1 相談 から 利用 に至 るま での 関係 づく りと その 対応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初にご相談に訪れるのは、家族がほとんどだが、まずはじめにできる限りご家族からこれまでの生活歴や既往歴、ここに至った経緯などを伺い、次にご本人と面会し、心身の状態や本人がどう思っているか、何を求めているかを必ず確認するようにしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記のとおり、最初の面接時にご家族からできる限りの情報を引き出すようにこちらからどんな小さなことでも見逃さず聞き取るように努めている。それによりご家族の方でも忘れていたようなことを引き出すこともある。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談時、ホームが満室であるケースが多いため、できるだけ在宅でのサービス利用で生活できないかを第一に検討するようにしている。本人やご家族に様々な選択肢を提供し、入居申し込みのご相談を受け付けている。	0	
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい利用者は他の認知症利用者に与える影響も大きいため、ご入居前に必ず本人と面会し、当ホームの雰囲気に馴染めるか、他の利用者とうまく生活していけるかなどを検討するようにしている。そして全スタッフと情報を共有し、どのようなケアがその方に最も適しているかを見極める。	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価 6 項目・外部評価 1 項目	0	
係り 継続 への 支 援	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の話をまずよく傾聴することを全スタッフが常日頃から念頭に置き、ケアに取り組んでいる。そして本人が今何を求めているか、何をしようとしているのかを見極め、ご自分でできることはなるべく自分の力でやっていただき、できないところを介護者がサポートしていく姿勢で取り組んでいる。本当の家族のような関係を目指している。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でご本人の日頃の様子や本人の意思、スタッフの思いなどをきめ細かく伝えるようにしている。そしてなるべく共に介護をしているという意識をご家族の方にも持っていただくように努めている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記のようにご家族とスタッフが情報を共有することで本人とのこれまでの関係を継続できるように支援している。ご家族の方も気軽に面会に来れるよう、なるべく全スタッフと顔なじみの関係になる努力をしている。また、ホームの行事等には必ず全家族に案内状を送っている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にはなるべく多く面会に来ていただけるよう伝えている。中には度々ご自宅の近所の顔見知りの方やご親戚を引き連れてご面会に訪れる家族の方もいる。お孫さん等が面会に来ると喜ばれる利用者が多いため、なるべくたくさんの方の機会に来ていただけるよう呼びかけている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人一人の性格や生活パターンを全スタッフが把握しており、その方のペースに合った対応を心掛けている。日に3回のティータイムや毎日の体操、レクリエーションなどその都度声を掛け、全員が共に過ごす時間や気の合う者同士で過ごす時間など、シチュエーションづくりに努めている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院者が出た場合、一旦退居扱いとなっても頻回に見舞いに行ったり、ご家族の方と連絡を取り合ったりしている。ご家族の方も本人が住み慣れたホームを希望される方が多く、今の空き室情報を聞きに来たり、本人の状態を報告に来られる。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価17項目・外部評価6項目	2	
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価3項目・外部評価1項目	0	
	1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に日々の生活パターンがあり、できるだけ「その人らしく」毎日が送れるよう支援している。日々の関わりの中で話し方や表情、態度などからその方の今の思いや真意を推測し、意思の把握に努めている。意思疎通の困難な方とはご家族の方を交えながら話し合っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前のアセスメント調査時に本人やご家族の方からこれまでの生活歴や生活環境、暮らし方についてお聞きしている。日々の会話や回想法なども行い、その方がこれまでどういった人生を歩まれたのか本人から直接引き出すようにしている。また、ご家族の方からより詳しく教えていただく場合もある。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全利用者一人一人の生活や行動パターンなどを把握できており、その方の能力に合った日々の生活の役割などを提供している。また、日々変化がないか言動や行動を観察し、全体像を把握するようにしている。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に全スタッフより利用者についての細かい変化の情報を共有するようにし、介護計画に反映させている。本人やご家族、主治医とも相談し、その時その方に合った介護計画の作成に努めている。毎月のスタッフ会議でも利用者について議論する時間を設け、介護計画の見直しを行っている。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記のようにその方に関わる全ての方と情報を共有しあい、今その方に最も適した介護計画の作成に努めている。状態に変化がなくても各スタッフより様々な情報を聞き取り、よりよい介護計画の作成に反映させている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録にその日の健康状態や言動、プランの実践結果などを記載するようにし、普段と異なる行動や言動などが生じると、より詳しく別の記録用紙に記載するようにしている。スタッフは業務前に必ずその記録を読み、申し送りを受けている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	し3 た柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の方針として同系列のデイサービスの利用者(認知症の方)が在宅での生活が困難になった時、当ホームの利用も選択肢のひとつとして掲げている。また、ご利用相談時に同系列のデイサービスや他のサービス事業者の紹介なども行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	2	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊者の離ホーム行為に対応するため、南警察署へ入居者の写真を提供したり(ご家族の同意のもと)、ホーム内での消防訓練に消防隊員の方に立ち会っていただいたりと様々な機関からのご協力をいただいている。また、地元スタッフやご家族の方のご紹介などでボランティアの方による演奏会や舞踊、民謡などの支援を受けている。	0	
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ご相談があった場合、まず第一に当ホームのご利用が本当に適切かどうかを考えるようにしている。中には介護サービスの種類や内容をあまりご存じない方も多く、様々なサービスのご紹介や他事業所についての紹介等も行っている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの相談員の方も参加されており、一度、「権利擁護」についても講義していただいた。気軽に相談できる関係であり、情報交換や相談、助言などをいただいている。	0	
		45 外部 評価 21	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックと提携し、2週間に一度の往診を利用している。Bユニットと交互に隔週利用である為、ホームには毎週かかりつけ医が往診に来ている形となる。緊急時には24時間いつでも相談可能である。利用者によってはご家族が定期的にかかりつけ医を受診させる方もいる。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	上記のかかりつけ医と連携し、情報提供や相談を行っている。場合によっては認知症の専門医療機関を紹介してもらっている。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護師を配置しており、利用者に異常がみられる場合は必ず看護師に報告するようにしている。24時間いつでも連絡可能な体制である。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関(担当医)とは頻回に情報交換に努めるようにしている。管理者が直接本人の様子を確認に行ったり、ご家族とも連絡を取り合い、早期退院に向けた支援を行っている。	0	
		49 外部 評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携同意書の説明の際、重度化した場合や終末期の介護の在り方についての説明はしているが、利用者の容体が急変した場合にかかりつけ医やご家族、管理者と急遽相談を行うケースが多い。	1	高齢の方や様々な疾患を抱えている方など、できるだけ早期にそういった話し合いを行っておく必要がある。終末期における医療や介護についての具体的なマニュアルを作成する。
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した際、搬送する医療機関が既に決まっている利用者もいるが、まだ具体的にそこまで至っていない利用者もいる。今後、かかりつけ医と連携を図り、具体的な終末期の支援をより早い段階で検討する。	1	上記のようにかかりつけ医やご家族と早期に話し合う機会を設ける。
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症高齢者は周囲の環境の変化に敏感である為、できるかぎりの情報提供をご家族と相談した上、行うようにしている。これまでのその方の生活になるべく近づけられるよう支援している。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	1	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	1	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	0	
		52 外部 評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の性格や言葉かけを把握し、その方の思いや気分を損ねないような声掛けの仕方を心掛けている。居室に入室する際は、その方が居室におられなくても必ず一声かけるようにしている。また、介護記録などの個人情報は徹底して外部に漏れないように努めている。	0	
		53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的に本人が意志の表示をしやすいような声掛けを行い、なかなか本人が思いを伝えられない場合は、表情や態度などから読み取り、選択肢をたくさん並べ、本人に自己決定を促している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の一日の流れにとらわれず、利用者一人一人が自由に生活できるように配慮し、強要はせず、その方のペースに合ったケアを心掛けている。食事の時間や入浴の時間などなるべく本人の希望に沿って行っている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で更衣ができない方や季節にそぐわない格好をされる方はその方と相談し、好みの衣類を選んでもらい、介助を行っている。理美容は現在、訪問理容を利用している方がほとんどだが、中にはご家族が訪問時にカットされる方もいる。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ(皮むきやひげとりなど)や料理の盛り付け、食器洗い、テーブル拭きなどその利用者に応じた役割を決め、日々スタッフと共に準備や後片付けを行っている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週に3度の買い出しの際、利用者になにか食べたいものはないか尋ね、好みのおやつや飲み物を提供している。利用者個々の嗜好物もアセスメント時に把握するようにしている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常時失禁状態の方にもおむつは着用せず、リハビリパンツ着用で時間毎にトイレ誘導を行っている。利用者個々の排泄パターンを把握し、排便チェックを毎日必ず行っている。失禁があまりみられなくなった利用者についてはスタッフと協議し、普通のパンツに戻せるかどうかを検討している。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく2日に一度は必ず入浴するよう心掛け、希望者は優先的に入浴できるようにしている。いつでも入浴される方や毎日夕食後に入浴される方など本人のペースに合わせている。入浴拒否の強い方には日々声掛けの仕方やタイミングを工夫し、本人をその気にさせるようスタッフと連携して取り組んでいる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後のティータイムに暖かい飲み物(ミルクなど)を提供し、安眠を促している。なるべくその方の就寝パターンに合わせ、介助を行っている。寝付けない方にはゆっくり話を聞くなどの対応をしている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯物たたみ、畑の水やりなど利用者それぞれに役割があり、スタッフと共に日々行っている。毎月外出行事も行き、ほぼ全ての利用者が参加できるよう実施している。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(財布)を所持している方には外出時や買い物時などできるだけ本人に支払いをしてもらっている。事務所で管理している利用者個々の「お小遣い帳」もあり、足りない時は本人と相談し、そこから支払っている。後日、ご家族に報告するようにしている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	徘徊の著しい利用者には介護計画に日々の散歩を取り入れ、ほぼ毎日実施している。その他の利用者にも声を掛け、散歩や買い物等の外出を促している。また、毎月の外出行事(花見、観劇、外食等)にはなるべく全利用者に参加していただくよう促している(中には外出するのを極端に嫌がる方もいる...)	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	上記のように外出行事の計画は日々のティータイム時に新聞などを参考に利用者からそれぞれ行ってみたいところなどをお聞きしている。ご家族が度々来られ、休みの日などに掛かけられる方もいる。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が遠のいている家族の方や不穏症状が著しい方など定期的にご家族に連絡し、ご本人とも必ずお話をしてもらっている。レクリエーションで作成した絵ハガキなどを送ることもある。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ホーム内での行事等には必ず案内状を送り、できる限りのご参加を促している。面会時には各居室で利用者と共に過ごしていただき、お茶や菓子などを提供する。面会が遠のいている利用者の方には管理者が連絡し、なるべく来ていただけるよう呼びかけている。	0	
		(4)	安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)	自己評価8項目・外部評価2項目	1	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年11月に「高齢者虐待防止法」についての勉強会を行い、その際身体拘束についてもスタッフと共に協議した。重度の認知症で自力で歩けないのに自分で歩こうとされる方など、センサーマットや鈴をつけるなどの介護上の工夫を行い、身体拘束のないケアを全スタッフが理解し、実践している。	0	
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望や徘徊者が多く、どうしても鍵をかけざるを得ないが、なるべく鍵をかけずにその利用者にスタッフが付き添う姿勢でケアに取り組んでいる。ホーム内(居室や浴室等)の鍵はかけていない。	0	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤者が必ず1名リビングにいる体制をつくっており、もしその場を離れる場合も他のスタッフに一声かけるよう義務づけている。居室で過ごされることが多い方もお茶やレクリエーションなどの声掛けを行い、安否を確認している。夜間も2時間毎の巡視(記録)を義務づけている。	0	
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	電気シェーバーや剃刀などは事務所で保管し、毎朝本人に手渡し、スタッフが見守っている。その他の制限は特にない。	0	
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々のADLや認知度、心身の状態を踏まえ、予測される事故を検討し、防止に努めている。事故報告書やヒヤリ・ハットなどを活用し、定期的にカンファなどで再発防止に向けた検討会を行っている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師を配置しているが、全てのスタッフに緊急時や応急手当などの訓練は実施しておらず、今後の課題となっている。	1	外部の研修や消防署の協力を得て今後、定期的に全スタッフに応急手当や蘇生術、緊急時の適切な対応について学んでいく。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での災害訓練を年に数回実施している。昨年10月消防署員立ち会いのもと、日中や夜間を想定した避難訓練を実施した。近隣の方々にもご協力いただけるよう地域の広報誌等に訓練の日時を掲載していただき、気軽に参加できるよう近隣住民に呼びかけた。訓練の予定や報告は運営推進会議などでも発表している。	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	全利用者に転倒のリスクがあることをご家族の方にはご理解いただいている。訪問時に最近の様子や健康状態、ADLの状態を報告し、起こりうるリスクについて説明している。ケースによっては福祉用具の活用なども紹介している。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックにて体温、血圧、脈拍などを記録している。普段と数値が異なる方などはしばらく時間をおいて再度計測するようにしている。また、意思疎通の困難な方でも普段と少しでも異なる状態がみられると、必ず看護師や管理者に報告する体制である。場合によってはかかりつけ医に報告し、指示を仰ぐ。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年3月に服薬や誤薬の危険についての勉強会を開催し、スタッフ一人一人が自覚を持って介助にあたるよう徹底している。服薬前に必ず名前と日付、食後かを確認するようにし、利用者の方が最後飲み終えるまで見守るようにしている。利用者それぞれの薬の種類についても薬表を介護記録に添付し、いつでも確認できるようにしている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日食事やおやつに乳製品(牛乳やヨーグルト)をつけ、腸内の改善を促している。その他バナナや繊維質の多い食材などを普段の献立に多く取り入れ、自然排便を促している。日々の体操や個別の歩行訓練などで運動なども実施している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、口腔内に残渣物が残りやすい方は毎食後の口腔ケアを実施している。自力でできる方や残渣物の少ない方は朝、夕の口腔ケアを実施している。毎週訪問歯科の医師が往診に来られ、利用者の口腔内のチェックや治療を実施している。	0	
		79 外部評価 31	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの整った献立を作成しており、季節の食材に合わせて献立を調整している。野菜や果物を多く取り入れ、一日30品目を目標に食材を調整している。また、毎月体重測定を行い、利用者の体重の増減をチェックしている。糖尿病の方などは主食の量を調整するなど全体的なカロリーに配慮している。食事量や水分摂取なども記録し	0	
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	調理前の手洗いや一人の介助を行うにつき手洗いを徹底するなど感染予防に努めている。利用者にもトイレや食事前に必ず手洗いを実施し、外出の際はうがいをするように促している。その他、調理器具や食器類は食器洗浄機にて高温殺菌したり、ふきんやまな板、包丁などは每晚必ずハイター等で消毒するよう義務づけている。	0	
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に3度の買い出しにて新鮮な食材を取り入れている。肉や魚は冷凍保存し、2～3日以内に調理するようにしている。なるべく食材を買い過ぎず、一度で使い切るように心掛けている。台所や調理器具については上記のとおり衛生面の管理を徹底して行き、記録するようにしている。	0	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)～(2) (自己 82～89・外部 32～33)		自己評価8項目・外部評価2項目	0	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82～86・外部 32～33)		自己評価5項目・外部評価2項目	0	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターや鉢植えを置き、玄関には花瓶を置いて利用者やご家族に親んでもらえるような工夫に取り組んでいる。また、玄関に掲示板を設置し、地域の広報誌やホーム内で行われる行事なども掲示している。ホーム独自の環境整備委員会も設置しており、担当者が日々花の入れ替えや時期に沿った置き物などを設置している。	0	
		83 外部評価 32	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には利用者の作品や行事の写真などを貼り、リビングにはソファやカレンダー、新聞、雑誌などを置き、生活感を出している。日差しの強い日などはレースのカーテンをするなどの配慮を行い、テーブルには小さな花瓶を置き、季節の花などを飾っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席やソファが2台設置しており、利用者同士がゆっくりくつろげる空間となっている。テーブルで談笑されたり、ソファで新聞やTVを観るなどそれぞれ自由に過ごされる場となっている。	0		
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ自宅で使われていたタンスや鏡台、仏壇などを各居室内に設置し、馴染みの品物や家族の写真などが飾られている。家具類の設置は入居時に本人やご家族と相談し、安全面を考慮しながら行っている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず全ての窓を開け、換気に努め、日に数回換気を実施している。室温調整や湿度などにも配慮し、エアコンや加湿機、床暖房なども設置している。その他、トイレや浴室の換気扇は24時間つけており、冬期にはヒーターもそれぞれ設置している。各居室内も同様である。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内や廊下、トイレ、浴室に至るまでほぼ全ての箇所に手すりを設置しており、トイレや浴室は車イスの方でも介助者が楽に入れるスペースとなっている。利用者個々の状態に合わせ、居室内のベッドや家具類の位置などを決めている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の話をよく傾聴し、本人が何を訴えているのかを見極め、適切な対応を心掛けている。意思疎通が困難な方も表情や行動を観察し、スタッフと話し合いながら本人の自立支援に繋がるケアを検討している。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングからバルコニーへといつでも出れる構造になっており、畑やプランターなどをいつでも観察できる。天気がいい日などは、イスを外に出し、ひなたぼっこを行ったり、気分転換を図っている。畑の作物の収穫や草取りなども利用者と共にしている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	3		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。